

以下の情報は、全肢長会事務局からの提供です。

西日本豪雨災害の被害等の概況について

以下は、西日本豪雨の被害が生じたと推定される4地区校長会からの協力による7月13日現在の情報です。

1 中部地区からの情報

中部地区各県の会員校の被害はありません。

なお、岐阜県の1校で施設一部に浸水漏水があったとの情報があります。

※特別警報が発令された岐阜県では、県内22の特別支援学校はいずれも大きな被害はなかったようです。ただし、児童生徒数の多い特別支援学校や通学範囲の広い高校では、児童生徒宅の浸水等被害があったとの報告がありました。

また、飛騨地域（下呂や高山など）の特別支援学校は交通網が寸断され、7月9日まで休校となっています。

岐阜の1校では、あと数時間雨が降り続けていたら、大きな被害につながっていただろうと想定され、本当にギリギリのところ、大きな被害を免れたと感じているとの校長先生からの報告がありました。

2 近畿地区からの情報

近畿地区各府県の会員校において、人的被害はありません。

なお、和歌山県では、学校の施設設備における雨漏りを中心とした被害や通学路の土砂崩れや陥没等により通学に支障が出ているとのことです。

また、近畿地区各府県では、大雨による臨時休校等の対応をとった学校が比較的多くみられました。

○京都府の状況（平成30年7月11日現在）

◇丹波支援学校 1Fエレベーターホールに浸水したが、現在は作動。スクールバスの通路で陥没した箇所はあるが、全員登校できており、教職員も大丈夫。

◇中丹支援学校 7月6日（金）は冠水のため職員が学校に到着できず、臨時休校。7月9日（月）からは学校再開。

◇舞鶴支援学校行永分校 職員の自家用車で1台が水没

○大阪府の状況（平成30年7月11日現在）

◇堺支援学校 7月6日（金）は、鉄道運休のため臨時休校

◇茨木支援学校 自立活動室はじめ 6か所の雨漏り

◇東大阪支援学校 体育館への渡り廊下、トイレ、教室、保健室等、8か所の雨漏り。大きな水たまりのできた教室もあり、修繕が必要。

◇岸和田支援学校 7月6日（金）、休校措置

◇藤井寺支援学校 7月6日（金）、宿泊学習の帰校遅れ。スクールバス1便を運休

◇交野支援学校 地震で使えなくなっている体育館に雨漏り。天井の剥落あり。学校正門前の通学路（一般道）の脇の竹藪や樹木の一部が倒れており、高いのり面が崩れる恐れあり。

◇箕面支援学校 体育館はじめ校舎の一部に雨漏り。7月6日（金）、休校措置

◇中津支援学校 2か所、2階と3階天井から雨漏り。小学部始業 1時間遅れ 終業1時間遅れ 中高通常で授業実施

◇光陽支援学校 3か所、雨漏り（体育館 教室 バスターミナル）。7月6日（金）休校措置。宿泊行事実施の予定変更。

◇西淀川支援学校 スロープ、体育館、廊下1か所の雨漏り

◇東住吉支援学校 体育館内4か所を含む雨漏り12か所。宿泊学習からの帰校が、大幅遅れて19時30分となる。

3 中国・四国地区からの情報

岡山県をはじめ、広島県、愛媛県と大きな被害が出ているようです。特に倉敷まきび支援学校については、かなり甚大な被害が出ています。

(1) 甚大な被害

○岡山県立倉敷まきび支援学校

(7/9現在) 2階床上あたりまで水没したため、対応に追われる。

(7/10現在) 7月9日(月)より教職員は出勤し、2学期からの再開に向けて修復中。

安否が確認されていない児童生徒あり。教職員には被害なし。

水はおおむね引いているが、天井がはがれかけており、ヘルメットがないと危険な状況。あたり一面泥に覆われている。

※ボランティアの手配など検討中。必要とされる支援物資等についても検討中。

○愛媛県立宇和特別支援学校 肢体不自由部門

児童生徒、教職員には被害なし。学校の周辺やスクールバスの経路に一部不通箇所があるため、

7月9日(月)は臨時休校。

※7月7日(土)、プールから水があふれ、校舎の一部が浸水。

斜面を利用している学校であるため、一番上にあるプールにすぐ横の山から水が流れ込んであふれた。あふれた水は、通路階段を伝って、プールに一番近い教棟に流れ込み、廊下及び自立活動室が2センチメートルから3センチメートル浸水。

7月7日(土)、8日(日)に絨毯や教具を片付けて消毒を実施。

※児童生徒の中には自宅が床上・床下浸水になった者、避難所に避難している者が10名以上いる。(知的障害部門・聴覚障害部門・肢体不自由部門合わせての数)

(2) 交通機関等の支障

○広島県立西条特別支援学校

7月10日(火)は休校。公共交通機関では新幹線しか移動手段がない。周りの道路が寸断されており、食材の確保が可能かどうか分からず、給食の実施が難しい。

○広島県立広島特別支援学校

7月10日(火)は開校。給食の食材確保が難しい。何人かの児童生徒は避難。

4 九州地区からの情報

九州地区各県では、大きな被害は、人的にも建物等にもありません。

台風等と違い全く予期せぬ自然の猛威にどのように安全・安心の確度を高めていくか、特に通学バスの運行等難しい課題を突き付けられました。想定外という言葉ではすまされない危機管理を再度見つめなおすことが肝要であるとの多くの校長の意見が届けられています。

○福岡県の状況

◇北九州市立小倉総合特別支援学校 避難所に一時避難した児童生徒(4名)。高速道路が封鎖されたため、通学バスの乗車が最大4時間。

◇福岡市立今津特別支援学校 保護者に対して学校を避難所として開設したものの避難者なし。

◇福岡県立田主丸特別支援学校 学校が土砂災害危険地域に指定されており、休校措置。

◇福岡県立柳河特別支援学校 教職員の自宅床上浸水(1名)

◇福岡県立直方特別支援学校 児童生徒の自宅床下浸水(1名)

○佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の状況
被害状況はとくにない。

○沖縄県は台風7号の影響を受け、窓ガラスの破損、停電、学校菜園の農作物の潮焼け等の被害。